

# 教宣 せぶん

## 目の前の変化

7月12日都労委に行ってきました。今回の焦点は、代理店への転進募集の撤回の撤回がなされた(第3次募集が実行された)ことについて、都労委の立会いのもと、その事実確認を行わせる 組合活動や組合費のチェックオフをはじめとした便宜供与の他労組との組合差別について、あらためて早期に是正命令を下すよう要請することが目的でした。

については、労使双方で文書に残すこととなり、「提訴をしたことを理由に私たちの組合だけ転進支援策を撤回した」「都労委への追加申し立て」「文書による都労委の勧告」「第3次募集(撤回の撤回)」という構図を形として残すことができたと言え、私たちの運動・たたかいで会社の不当労働行為を跳ね返させたことが「歴史」にしっかりと刻まれることになりました。については、地位保全の訴訟との関係で一刻も早く是正命令が出されるよう要請するとともに、証人尋問も含めたスケジュールの確認を行いました。

総じて言えることは、この日に行われたすべての要請がこちらのペースで行われているという点です。理詰めで指される私たちの一手・一手に、狡猾な経営も抗いようがないというのが現実だと感じました。これが企業内であれば「脅し」や「無視」、「引き延ばし」や「高圧的な態度」で一蹴できるのかもしれませんが、都労委という第三者の公平な目の前では、法令順守を掲げる会社が無視などできるはずもなく、得意の「狡猾さ」も発揮できません。こうして見ていくと、企業内に意識を封じ込まれているとなかなか見えてきませんが、ひとたびその意識を外へ解き放してみると、「法」とは想像以上に私たち働く者に味方してくれていると感じます。いやそうではなく、実は、「法」とは誰に対しても「公平」「中立」なものであるでしょう。「あの森にはトラがいる」と脅かされ続けてきた住人が、森に行く勇気を持ち、足を踏み入れてみたら、森は誰かを食い殺すような空間ではなく、訪れる誰をも平等に、公平に迎え入れてくれる空間だった、という感じです。

私たちが経営の狡猾さの前に手をこまねいていたら、何も動かなかっただしょう。震えおののいていたら、何も変わらなかつただしょう。しかし、私たちは勇気を持って動き出しました。すると、目の前の風景は、いま明らかに動き、変わってきています。

この「変化」は、いまはまだ動いた者以外には見えないでしょう。感じないでしょう。しかし、今後この「変化」はもっと大きくなる予感がします。動かなかった者にも感じられる変化に。